

評価対象年度	平成28年度	施策評価シート	政策	6	施策	14
施策名	14 家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成		施策担当 部局	教育庁		
「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	6 子どもを生き育てやすい環境づくり	評価担当 部局 (作成担当 課室)	教育庁 (生涯学習課)		

施策の目的 (目標とする宮城の姿)	○ 家庭・地域・学校がそれぞれ果たすべき役割を認識し、協働することで、家庭、地域における子どもの教育力が向上しており、子どもが基本的な生活習慣や「生きる力」を身につけている。 ○ NPOなどの多様な主体による、学校活動、子育て、さらには公民館事業などへの参画が進み、幅広いネットワークを生かした子どもにやさしい地域づくりが進められている。 ○ 地域社会での様々な体験や家庭、地域と学校とが協働した教育活動を通じて、子どもが社会性・人間性に富み、健やかに成長できる環境が整っている。
施策の方向 (「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」の行動方針)	◇ 家庭、地域と学校との協働により、子どもの基本的な生活習慣の定着に向けた運動を展開する。 ◇ 子どもの活動拠点づくりや地域で子どもを育てるシステムなど、教育に対する地域全体での支え合いを推進する組織体制の確立を進める。 ◇ 家庭、地域と学校の協働により、多くの住民が主体的に参画した子どもの多様な学習・体験機会の創出を図る。 ◇ 学校・企業・NPOなど、地域における関係機関と主体的に連携した多様な教育活動等の促進を進める。

決算(見込)額 (千円)	年度	平成26年度 (決算額)	平成27年度 (決算額)	平成28年度 (決算(見込)額)	平成29年度 (決算(見込)額)
	県事業費	162,693	150,328	173,418	-

※決算(見込)額は「宮城の将来ビジョン推進事業」と「取組に関連する宮城県震災復興推進事業」の合計額(再掲分含む)

目標指標等	■達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」 C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」					
	■達成率(%) フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値) 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)					
		初期値 (指標測定年度)	目標値 (指標測定年度)	実績値 (指標測定年度)	達成度 達成率	計画期間目標値 (指標測定年度)
1	朝食を欠食する児童の割合(小学6年生)(%)	3.7% (平成20年度)	2.0% (平成28年度)	3.8% (平成28年度)	C -5.9%	2.0% (平成29年度)
2	平日、午後10時より前に就寝する児童の割合(小学校5年生)(%)	53.5% (平成24年度)	57.5% (平成28年度)	55.2% (平成28年度)	B 96.0%	58.5% (平成29年度)
3	平日、午前6時30分より前に起床する児童の割合(小学校5年生)(%)	43.3% (平成24年度)	47.3% (平成28年度)	59.0% (平成28年度)	A 124.7%	48.3% (平成29年度)
4-1	学校教育を支援する「みやぎ教育応援団」の登録数(企業・団体)(団体)	190団体 (平成24年度)	275団体 (平成28年度)	275団体 (平成28年度)	A 100.0%	300団体 (平成29年度)
4-2	学校教育を支援する「みやぎ教育応援団」の登録数(個人)(人)	363人 (平成24年度)	470人 (平成28年度)	500人 (平成28年度)	A 106.4%	500人 (平成29年度)

■ 施策評価（原案）

やや遅れている

評価の理由

<p>目標指標等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ目の指標「朝食を欠食する児童の割合」は、平成25年度及び平成26年度は3.3%とほぼ横ばいであったものの、平成27年度は3.7%、平成28年度は3.8%と年々増加している。全国平均(4.4%)より低いものの、平成20年度の初期値(3.7%)を上回る数値であったことから、達成率は-5.9%となり、達成度は「C」に区分される。 ・二つ目の指標「平日、午後10時より前に就寝する児童の割合」は、全国学力・学習状況調査(小学6年生対象)の結果、55.2%であり、達成率は96.0%で、達成度は「B」に区分される。 ・三つ目の指標「平日、午前6時30分より前に起床する児童の割合」は、県独自の調査(小学6年生対象)の結果、59.0%であり、達成率は124.7%で、達成度は「A」に区分される。 ・就寝時間及び起床時間に関する調査に関しては、平成26年度から全国学力・学習状況調査(小学6年生対象)の項目から外れたことから、小学5年生を対象に県独自の調査を実施している。なお、平成28年度の全国学力・学習状況調査では、就寝時間に関する項目が再度追加された。 ・四つ目の指標「学校教育を支援する『みやぎ教育応援団』の登録数」については、団体・個人ともに目標値を達成していることから、達成度は「A」に区分される。
<p>県民意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年県民意識調査において、類似する取組である震災復興計画の分野6取組2「家庭・地域の教育力の再構築」の調査結果を参照すると、「高重視群」の割合が73.8%(前回70.2%)、「高関心群」の割合が70.8%(前回69.3%)と前回の結果を上回っている。 ・「満足群」の割合は40.9%(前回37.7%)と、前回の結果を上回っているものの40%台の低い状況にあるため、取組内容の改善が求められている。
<p>社会経済情勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の影響に加え、ライフスタイルの多様化や夜型化の進展、スマートフォン等の急速な普及により、子どもたちの生活習慣等への影響が懸念されるほか、学習意欲や気力・体力の減退など、子どもの健全な育成を阻害する要因にもなっている。また、核家族化の進展や地域コミュニティの希薄化等は、家族や地域の教育力の低下につながっている。 ・平成28年度における県内児童生徒のスマートフォン等の所有率は、小学6年生で54.3%、中学3年生で77.3%、高校2年生で99.3%と年々増加しており、1日に3時間以上使用する児童生徒の割合は、小学6年生で5.0%、中学3年生で14.1%、高校2年生で27.1%であった。 ・本県は震災により、家庭・地域・学校が大きな被害を受け、未だに子どもを育てる環境が十分に整っていない地域がある。また、震災後の地域住民の住環境の整備に伴い、コミュニティの再生や地域の新しいネットワークの構築が課題となっている。
<p>事業の成果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの基本的生活習慣の定着促進については、みやぎっ子ルルブル推進会議と連携し、これまでの「ルルブル(しっかり寝ル・きちんと食ベル・よく遊ブで健やかに伸びル)」の取組を推進しており、親子で体を動かし、「ルルブル」の実践と基本的生活習慣の確立の契機とするため、「ルルブル親子スポーツフェスタ」を開催した(参加者406組1,374人)ほか、新たに県内40か所の幼稚園、保育所等において「ルルブルロックンロール♪教室」を開催した。また、子どもの生活習慣は保護者や大人から受ける影響が大きいことから、企業に対してルルブルの普及啓発を図るため、会員企業が実践する取組を取材し、河北新報に取組内容を掲載した(企業7社)。 ・スマートフォン等の使用に関する宣言やルールづくりのポイントを掲載した「スマホ・携帯の使用について注意喚起を図るチラシ」を作成し、情報通信事業者等の協力を得て、スマートフォン等の販売時に配布した。また、県内の学校や地域のルールづくり等の現状の調査結果を基に、家庭や学校、市町村教育委員会等におけるスマートフォン等の使用に関する取組やルールなどを掲載したリーフレットを作成し、小・中学校及び高等学校等に配布した。 ・家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる体制や志教育の推進体制を図る事業については、各市町村において地域・学校・企業等が連携・協働する取組が推進されるなど、一定の成果が見られたことから、概ね順調に推移していると考えられる。 ・以上により、施策の目的である「家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成」は、各取組において一定の成果が見られたものの、目標指標の状況や各取組の成果等を勘案し、「やや遅れている」と判断する。

※ 評価の視点： 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

施策を推進する上での課題と対応方針（原案）

課題	対応方針
<p>・震災以降、子どもたちの生活リズムが一層不規則になることが懸念されており、規則正しい生活習慣や外遊びなどの重要性がますます高まっていることから、家庭はもとより学校や地域、企業や団体等と連携・協力し、社会総がかりで子どもたちの基本的な生活習慣の定着促進に取り組む必要がある。また、各家庭において基本的な生活習慣の確立に向けた取組が積極的に行われるよう、引き続き働き掛けを行っていく必要がある。</p> <p>・スマートフォン等の急速な普及に伴い、児童生徒の所持率が年々増加しているとともに、高校生においては1日1時間以上使用している生徒の割合が78.5%に及んでいる。長時間にわたる過度な使用による児童生徒の学力や生活習慣、心身や学校生活、対人関係等へ大きな支障を来すことが懸念されることから、児童生徒やその保護者に対してスマートフォン等の使用に関する問題点や危険性について注意喚起を図る必要がある。</p> <p>・地域と学校が連携・協働のもと、一体となって子どもを育てていくため、地域学校協働活動の推進と、活動を支える地域学校協働本部の組織化を進めるとともに、教育についての相互理解を深め、家庭・地域・学校のより良い関係づくりを進める必要がある。</p> <p>・子どもの学習・体験活動の充実を図ることを目的に推進しているみやぎ教育応援団事業において、平成28年度は企業・団体・個人とも「みやぎ教育応援団」への登録が増え、目標値を達成することができたが、更なる拡大を図るため、当該事業について広く周知するとともに、学校教育や地域活動における登録企業・団体・個人の活用促進に向けた取組を進める必要がある。</p>	<p>・「ルルブル(しっかり寝ル・きちんと食バル・よく遊ブで健やかに伸びル)」の取組に賛同する企業・団体等(ルルブル会員)と連携した取組の工夫を図り、「みやぎっ子ルルブル推進会議」の会員団体の活用を図る。また、会員団体のほか、マスメディアや市町村教育委員会等との連携・協力をより一層深めながら、引き続き「ルルブル」の重要性について理解促進と普及啓発を図るため、より実践的な取組を検討し実施していく。あわせて、各種イベントでのパンフレット等による周知を継続することに加え、子どもの基本的な生活習慣への関心が低い家庭に対する働きかけを行うため、乳幼児健康診査や母子手帳交付時にパンフレットを配布するなど、福祉分野との連携を進める。</p> <p>・スマートフォン等の使用については、東北大学川島教授による講演会の開催のほか、総務省東北総合通信局や警察等関係機関と連携し、注意喚起の取組を行う。また、庁内関係課室で連携を図り、これまでの取組の成果や課題、問題点を分析し、今後の取組を検討するとともに、スマートフォン等の使用に関する現状や課題、取組事例など学校の授業で活用できるリーフレットを作成し、県内児童生徒に配布する。あわせて、情報モラル及び情報リテラシーに関する教育の推進やスマートフォン等を介したいじめ対策等に取り組む。</p> <p>・本県が取り組んできた協働教育を更に推進し、地域学校協働本部の組織化やコミュニティ・スクールを推進するとともに、民間企業、地域活動団体、ボランティア団体などとの連携を強化し、団体相互の緩やかなつながりを形成することができる交流の場(プラットフォーム)の設置を推進する。</p> <p>・登録団体と教育関係者等との情報交換やマッチングを目的とした「みやぎ教育応援団情報交流会」を県中央と県北の2か所で開催し、活用の促進を図る。 また、各圏域において既に学校教育支援の活動を行っている企業・団体等を教育事務所・地域事務所から推薦してもらうとともに、県庁内各課室の関係団体から、登録可能な団体をリストアップし働き掛けることにより、登録数の増加を目指す。</p>

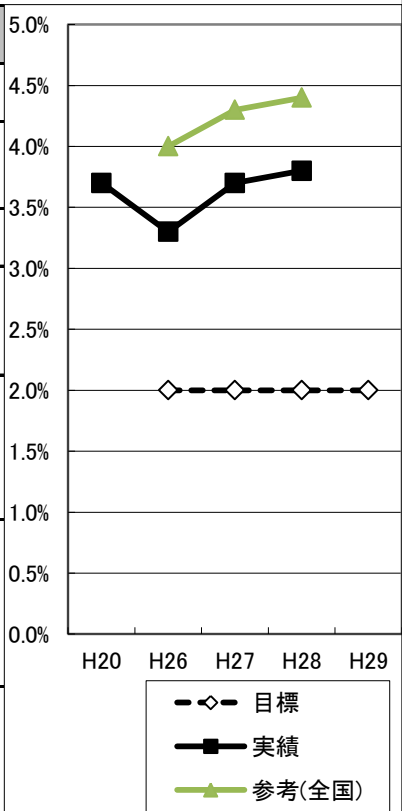
評価対象年度 平成28年度

政策 6 施策 14

目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 スtock型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)
 目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)

1	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	朝食を欠食する児童の割合 (小学6年生)(%) [目標値を下回ることを 目標とする指標]	指標測定年度	H20	H26	H27	H28	H29
		目標値	-	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%
	全国学力・学習状況調査にお いて、「朝食を毎日食べていま すか」に対して、「あまりしてい ない」又は「全くしていない」と 回答した児童(小学6年生)の 割合	実績値	3.7%	3.3%	3.7%	3.8%	-
		達成率	-	23.5%	0.0%	-5.9%	-

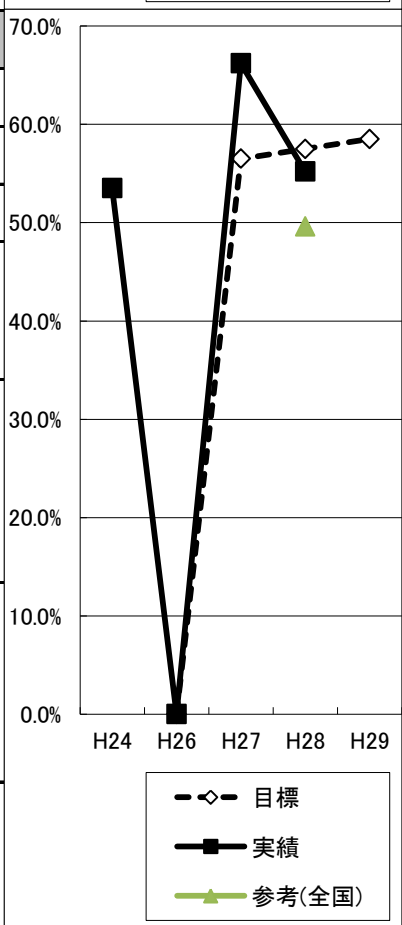


目標値の設定根拠
 ・平成17年度の実績値4.4%(出典:宮城県学力学習意識調査:小学5年生)を基準とし、この数値の概ね半分となる2.0%まで減少させることを目標とし、宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画の復旧期(平成23年度～平成25年度)における目標値として設定したものの、経年の実績値の状況を見ると、依然として2.0%の目標値を達成できていないことから、再生期(平成26年度～平成29年度)における目標値についても、同様の2.0%に設定した。

実績値の分析
 ・震災前の平成22年度調査では2.6%だった朝食の欠食率が、平成24年度には3.4%と高くなり、平成28年度は3.8%と、全国平均値の4.4%より低いものの、平成20年度の初期値3.7%を上回っており、目標値と乖離している。
 ・「はやね・はやおき・あさごはん推奨運動」や基本的な生活習慣の定着促進に向けた更なる普及啓発に取り組む中で、子どもたちや各家庭に直接働きかけ、実践につなげる取組や関心が低い家庭に対する効果的な働きかけを、より一層していく必要がある。

全国平均値や近隣他県等との比較
 ・平成28年度調査の全国平均は4.4%であり、全国平均値より良い結果ではあるものの、隣県の状況は、岩手県3.1%、福島県4.1%、山形県2.7%であり、岩手県、山形県よりも欠食率が高い状況である。

2	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	平日、午後10時より前に就寝 する児童の割合(小学校5年 生)(%) [フロー型の指標]	指標測定年度	H24	H26	H27	H28	H29
		目標値	-	-	56.5%	57.5%	58.5%
	全国学力・学習状況調査にお いて、「普段(月曜日から金曜 日)、何時ごろに寝ますか」に 対して、「午後9時より前」又は 「午後9時以降、午後10時よ り前」と回答した児童(小学6年 生)の割合	実績値	53.5%	-	66.2%	55.2%	-
		達成率	-	-	117.2%	96.0%	-



目標値の設定根拠
 ・「はやね・はやおき・あさごはん」における「はやね」の成果を示す指標として、当該指標を設定したものの、子どもたちの健康な体をつくるために必要な「成長ホルモン」は、就寝後、午後10時くらいから分泌されることが科学的にも証明されていることから、当該指標の基準となる就寝時間として「午後10時より前」を設定した。
 ・経年の実績値を見ると、伸び率の平均が毎年約1%ずつ増加していることから、各年度の目標値については、平成24年度の初期値を基準に毎年1%の増加として設定した。

実績値の分析
 ・平成26年度から「全国学力・学習状況調査」における調査項目から外れたことを受け、平成27年度に本県の小学5年生に対し、同調査に準じた内容で本県独自に調査を行ったが、平成28年度から「全国学力・学習状況調査」に本項目が再掲載されたことから、小学6年生の数値を実績値として採用することとする。
 ・平成28年度は55.2%と、全国平均値の49.6%を上回ったことから、「はやね・はやおき・あさごはん推奨運動」や基本的な生活習慣の定着促進に向けた更なる普及啓発に取り組む中で、子どもの睡眠の重要性等について理解促進を図る必要がある。

全国平均値や近隣他県等との比較
 ・平成28年度調査の全国平均は49.6%であり、全国平均値より良い結果ではあるものの、隣県の状況は、岩手県62.7%、福島県57.6%、山形県56.5%であり、隣県3県よりも低い状況である。

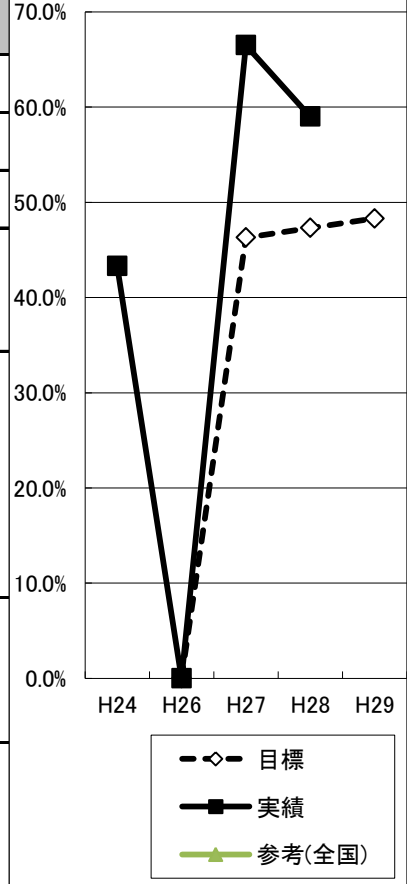
評価対象年度 平成28年度

政策 6 施策 14

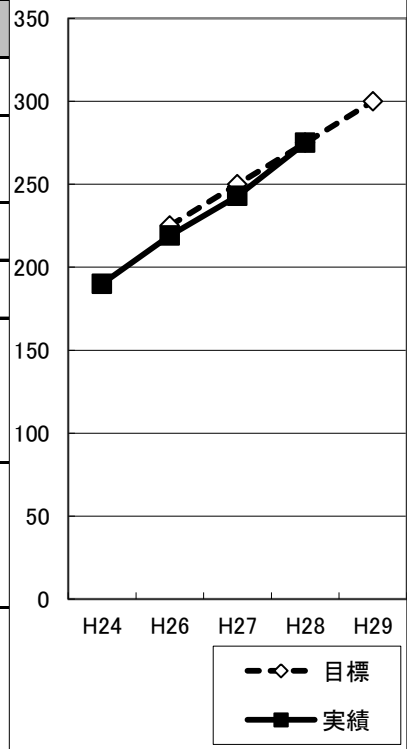
目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型の指標: 実績値/目標値 スtock型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値)
 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)

3	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	平日、午前6時30分より前に起床する児童の割合(小学校5年生)(%)	指標測定年度	H24	H26	H27	H28	H29
	[フロー型の指標]	目標値	-	-	46.3%	47.3%	48.3%
	県独自調査において、「普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに起きますか」に対して、「午後6時より前」又は「午後6時以降、6時30分より前」と回答した児童(小学6年生)の割合	実績値	43.3%	-	66.5%	59.0%	-
	達成率	-	-	143.6%	124.7%	-	
目標値の設定根拠	・「はやね・はやおき・あさごはん」における「はやおき」の成果を示す指標として、当該指標を設定したもの。 ・子どもたちの健康な体をつくるために必要な「成長ホルモン」は、就寝後、午後10時くらいから分泌されることが科学的にも証明されており、9時くらいには就寝して、7～9時間の睡眠をとることが望ましいと言われていることから、当該指標の基準となる起床時間として「午前6時30分より前」を設定した。 ・経年の実績値を見ると、伸び率の平均が毎年約1%ずつ増加していることから、各年度の目標値については、平成24年度の初期値を基準に毎年1%の増加として設定した。						
実績値の分析	・平成26年度から「全国学力・学習状況調査」における調査項目から外れたことを受け、平成27年度は本県の小学5年生に、平成28年度は本県の小学6年生に同調査に準じた内容で本県独自に調査を行ったことから、小学6年生の数値を実績値として採用することとする。 ・平成28年度は59.0%と、前年度を下回ったものの、前年度に続き目標値を上回った。						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						



4-1	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	学校教育を支援する「みやぎ教育応援団」の登録数(企業・団体)(団体)	指標測定年度	H24	H26	H27	H28	H29
	[フロー型の指標]	目標値	-	225	250	275	300
	企業・NPO等の登録数	実績値	190	219	243	275	-
	達成率	-	97.3%	97.2%	100.0%	-	
目標値の設定根拠	・子どもの学習・体験活動の充実・活性化を図るために設立した「みやぎ教育応援団」の登録対象者の範囲を拡大し、県内外を問わず登録依頼活動を積極的に行うことなどにより、再生期中、企業・団体については毎年25団体ずつ増加させていくことを目標とし設定した。						
実績値の分析	・各教育事務所から把握している団体等の推薦をもらい、みやぎ教育応援団事業の趣旨を理解してもらうとともに、登録の働きかけを行ったところ、登録団体が増加し、目標値を達成することができた。						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						



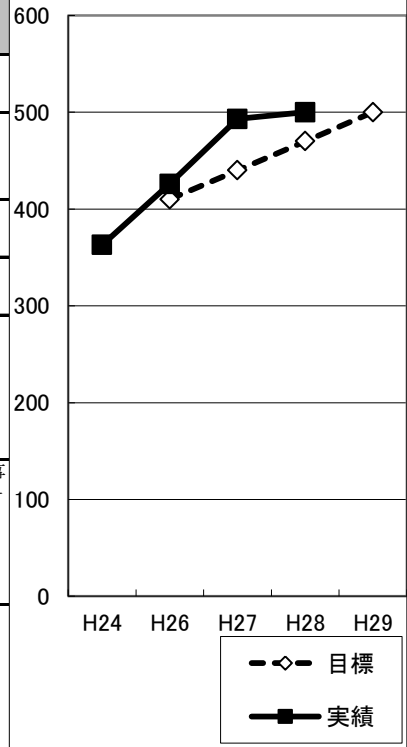
評価対象年度 平成28年度

政策 6 施策 14

目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値)
 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)

4-2	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	学校教育を支援する「みやぎ教育応援団」の登録数(個人)(人) [フロー型の指標]	指標測定年度	H24	H26	H27	H28	H29
	目標値	-	410	440	470	500	
	実績値	363	426	493	500	-	
	達成率	-	103.9%	112.0%	106.4%	-	
目標値の設定根拠	・子どもの学習・体験活動の充実・活性化を図るために設立した「みやぎ教育応援団」の登録対象者の範囲を拡大し、県内外を問わず登録依頼活動を積極的に行うことなどにより、再生期中、個人については毎年30人ずつ増加させていくことを目標とし設定した。						
実績値の分析	・県内各大学に対してみやぎ教育応援団事業の趣旨の理解促進を図るとともに、各教育事務所から既に教育活動に対して支援を行っている個人を推薦してもらい登録への働きかけを行ったところ、個人登録者数が増加し、目標値を大きく上回る事ができた。						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						



評価対象年度	平成28年度
--------	--------

政策	6	施策	14
----	---	----	----

宮城の将来ビジョン推進事業											
評価番号	事業番号	事業名	平成28年度決算見込額(千円)	事業の状況							
		事業主体等	特記事項	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
1	1	はやね・はやおき・あさごはん推奨運動	非予算的手法	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				「はやね・はやおき・あさごはん」といった基本的な生活習慣の子どもへの定着に向けて、広く県民や家庭への普及活動を実施する。				・子育て応援団すこやか2016(宮城テレビ主催)へのブース出展 ・早寝・早起き・朝ごはん実行委員会in宮城との連携 ・市内関係各課室との連携			
		教育庁 教育企画室ほか	取組16に再掲 地創3(3)	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	年度別決算(見込)額(千円)			
				概ね妥当	ある程度成果があった	-	維持	H26	H27	H28	H29
								-	-	-	-
2	2	基本的な生活習慣定着促進事業	41,120	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				震災以降、子どもたちの生活リズムが一層不規則になることが懸念されており、規則正しい生活習慣や外遊びなどの重要性がますます高まっていることから、みやぎっ子ルルブル推進会議の設立趣旨に賛同する企業・団体と連携し、社会総がかりで、幼児児童生徒の基本的な生活習慣の定着促進を図る。				・紙芝居演劇の上演:20回 ・みやぎっ子ルルブルフォーラムの開催:参加者約360人 ・ルルブル親子スポーツフェスタの開催:参加者約1,400人(石巻市) ・ルルブルロックンロール教室の実施:40か所 ・みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体表彰:18団体 ・小学生ルルブルポスターコンクール表彰:18人 ・ルルブル通信発行:5回 ・新聞にみやぎっ子ルルブル推進会議会員団体のルルブルの取組等を連載:7回 ・新規会員登録数:42団体 ・ルルブル・エコチャレンジ事業の実施:参加者19,255人(認定証送付人数) ・基本的な生活習慣定着パンフレットの増刷・配布 ・新聞意見広告の掲載 ・スマートフォン等の使用に関する注意喚起を図るリーフレットの作成・配布:147,600部 ・スマホ・携帯の使用に関する注意喚起を図るリーフレットの作成・配布:26,000部			
		教育庁 教育企画室	取組15 再掲 震災復興6②① 地創3(3)	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	年度別決算(見込)額(千円)			
				概ね妥当	成果があった	効率的	維持	H26	H27	H28	H29
								43,119	40,751	41,120	-
3	3	放課後子ども教室推進事業	59,837	事業概要				平成28年度の実施状況・成果			
				被災した地域の子どもたち等に対し、放課後や週末等に安全・安心な学習活動拠点を設け、地域の方々の参画を得ながら子どもたちの成長を地域全体で支えていく仕組みづくりをする市町村に対して支援を行う。				・放課後子ども教室(20市町村65教室開催) ・放課後児童クラブブロック研修会(4地区計33人参加) ・放課後子ども教室指導員等研修会(78人参加) ・地域住民の参画を得ながら、学習活動や体験活動を積極的に展開することにより、地域の教育力の向上や活性化を図ることができた。			
		教育庁 生涯学習課	震災復興6②① 地創3(3)	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	年度別決算(見込)額(千円)			
				概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持	H26	H27	H28	H29
								49,282	47,106	59,837	-

4	4	協働教育推進総合事業	57,436	事業概要		平成28年度の実施状況・成果			
				<p>震災により子どもを育てる環境が大きく損なわれていることから、子育てサポーターの養成など地域が協働して子どもを育てる仕組みづくりを積極的に推進し、地域全体で子どもを育てる体制の整備を図る。また、被災による生活不安や心の傷を有する親子を支援し、家庭の教育力の向上を図るため、家庭教育に関する情報提供を行う。</p>		<p>・協働教育プラットフォーム事業(委託事業)30市町村実施 ・教育応援団事業の実施 団体275件、個人500人(大学職員) 認証・登録 ・「協働教育の推進」を具現化するための事業を行っている市町村数(32市町村) ・コーディネーター養成研修会の開催(年5回346人受講) ・地域活動支援指導者養成研修会の開催(参加者199人) ・子育てサポーター養成講座の開催(参加者113人、修了者79人) ・子育てサポーターリーダー養成講座の開催(参加者74人、修了者38人) ・子育てサポーターリーダーネットワーク研修会(参加者200人) ・宮城県家庭教育支援チーム研修会(参加者136人) ・協働教育研修会(参加者1,031人) ・協働教育ネットワーク会議(参加者220人) ・父親の家庭教育参画支援事業(参加者166人) ・協働教育推進功績表彰(7個人、2団体) ・コミュニティづくり研修会(参加者50人) ・宮城県家庭教育支援チームによる「親の学びのプログラム」派遣事業(18回実施) ・学ぶ土台づくり「自然体験活動」(参加者257人) ・各市町村において、協働教育推進組織が整備され、家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりが進み、地域全体で子どもを育てる気運が高まった。</p>			
				事業の分析結果		年度別決算(見込)額(千円)			
				教育庁	取組15に再掲	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性
生涯学習課	震災復興 ※6②①01 ※6③①04 地創1(3)	妥当	成果があった	効率的	維持	47,639	48,053	57,436	-
5	5	志教育支援事業	5,809	事業概要		平成28年度の実施状況・成果			
				<p>人間の生き方や社会の有様を改めて見つめ直させた今回の震災の経験を踏まえ、児童生徒に、自らが社会で果たすべき役割を主体的に考えながら、より良い生き方を目指し、その実現に向かって意欲的に物事に取り組む姿勢を育む教育を推進する。</p>		<p>・志教育推進会議を開催(年3回)し、本事業の進行管理とともに、必要な指導助言を行った。 ・志教育推進地区の指定(6地区)をし、事例発表会を開催した。 ・「志教育フォーラム2016～志が未来をひらく～」を開催し、志教育の理念の普及を図った。 ・「みやぎの先人集『未来への架け橋』」第2集のリーフレットを作成し、県内公立小・中学校、関係機関に配布した。 ・「道徳授業づくり研修会」を開催し、県内小・中学校教諭395人が参加した。</p>			
				事業の分析結果		年度別決算(見込)額(千円)			
				教育庁	取組15 再掲	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性
義務教育課	震災復興 6①⑤ 地創1(2)①	妥当	成果があった	効率的	維持	12,990	3,703	5,809	-

6	6	高等学校「志教育」推進事業	9,216	事業概要		平成28年度の実施状況・成果						
				高校生が自ら社会で果たすべき役割を主体的に考えながら、より良い生き方を目指し、その実現に向かって意欲的に物事に取り組む姿勢を育む教育を推進するため、地域における志教育の推進体制の充実を図るとともに、学校設定教科・科目等による志教育の推進、志教育に関する情報発信、マナーアップ運動、地域貢献活動及び特色ある県立高校づくりに取り組む。		・研究指定校の指定(地区指定校6校, 普通科キャリア教育推進校5校) ・担当者会議の開催(参加者86人) ・みやぎ高校生フォーラムの開催(参加者:生徒181人, 教員106人) ・マナーアップキャンペーンの実施(4月, 10月) ・マナーアップ推進校の指定(県内全ての高校) ・マナーアップ・フォーラムの開催(参加者:生徒129人, 教員66人) ・みやぎ高校生地域貢献推進事業の実施(生徒のボランティア活動に係る移動経費の補助:7校) ・魅力ある県立高校づくり支援事業の実施(26校)						
				教育庁 高校教育課	取組15 再掲 震災復興 6①⑤ 地創1(2)①	事業の分析結果			年度別決算(見込)額(千円)			
						①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28
		妥当	成果があった	概ね効率的	維持	9,663	10,715	9,216	-			
決算(見込)額計		173,418										
決算(見込)額計(再掲分除き)		117,273										

